

京都市考古資料館開館30周年 —最近の試みから—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

はじめに 京都市考古資料館は昭和54年11月の開館以来、30周年を迎え、入館者数は延べ60万人を超えました。この間、当館の運営を行なっている財団法人京都市埋蔵文化財研究所の発掘調査成果を中心とした展示や講座などを通じ、「つちの中から見た京都の歴史」を紹介してきました。ここでは、こうした30年間の歩みの中でも最近の新たな試みを紹介したいと思います。

遺跡を活用する 考古資料は出土品だけでなく、調査で発掘した遺跡もあわせてご覧いただくことが大切です。検出した遺跡は現地説明会などで公開していますが、発掘調査が終われば残されないケースが大半です。しかし、史跡として保存されたり、発掘調査場所に銘板や石碑が設置されているところも数多くあります。さらに平成20年には、京都市により「源氏物語ゆかりの地」の説明板が平安宮跡を中心に設置されました。

このような遺跡を活用した「遺跡めぐり」を当研究所が実施してきました。近年、地域の文化財関係のNPO法人などでも平安宮跡を中心とした「遺跡めぐり」に取り組んでおられます。そこで、こうした関係団体が集まり、より充実したものにしていこうということで、「遺跡めぐり・スタンプラ



遺跡めぐり 2008年10月 / 二条駅前広場にて



健康ウォーク 2005年2月 / ウォーキング指導



京都学講座 2008年2月 / 第196回文化財講座



2009年度博物館実習／木製品の保存処理



2009年度博物館実習／土器の彩色復元

リー」を企画しました。

昨年は、源氏物語千年紀事業として「紫式部の生きた平安京をめぐる」と題し、スタンプラリーを開催しました。それぞれの団体には各ポイントでの解説や案内などを担当していただき、当館でも特別展示「紫式部の生きた京都」を開催し、ラリーポイントの一つとして見学コースに入れました。この他にも、修学旅行生を対象とした「遺跡めぐり体験」をNPO法人と協力して実施しています。

活動を広げる また、文化財以外の団体との連携も図っています。最初に手がけたのが、「健康づくり」施設との連携です。当館の近くに社会保険京都健康づくりセンターが開館し、お互いの特徴を活かした取り組みができないかということで考えついたのが「健康ウォーク」です。ウォーキングの効果は健康づくりの中でも注目されていますが、これと「遺跡めぐり」を組み合わせたものです。さらにトレーナーによるウォーキングや健康づくり指導といった内容も取

り入れ、毎回多くの参加者がありました。社会保険施設の廃止により終了することになりました。これはその後、老人福祉センターの生きがいづくり教室などに受け継がれています。

新たな試み 文化財講座でも新たな試みを行なっています。文化財講座は当館内で開催してきましたが、古い施設であるために十分な聴講環境で受講していただけませんでした。そこで京都アスニーなどに会場を移してきました。

京都アスニーとの間でこの文化財講座のような講座をもっと広いジャンルで市民の皆さんに学習機会として提供できないかということになりました。京都市には文化や文化財を担当する施設が歴史資料館や美術館、文化財保護課など多数あります。それらを集めて、京都の豊富な歴史資料・文化資料・考古資料について総合的に学べる講座を立ち上げてはどうかということになり、現在の「京都アスニー京都学講座」が開講し、当館も参加することになりました。

一つ一つの団体や施設では実施しづらい取り組みでも、こうして一つに集まり、個々の特長を生かして有意義なものにしていく活動がこれからも大切だと思います。

特性を生かして 当館では、博物館学芸員資格のための実習を実施しています。一般の博物館実習では、展示品の取り扱い方などを中心にしますが、ここでは考古資料の展示までのプロセスを重視しています。

遺跡からの出土品が、発掘調査から整理作業（洗浄・分類・実測・復元・保存処理・写真撮影・報告書作成）を経て、資料として展示されるに至るまでの過程を学ぶことができます。こうした一連の内容を実習に取り入れて、考古資料を扱う専門性を生かしています。なかでも、復元作業や保存処理などは、他の実習館ではあまり体験できない内容でしょう。

これからも、考古資料館ならではの特殊性を生かした事業も大切にしていきたいと考えています。

（村木 節也）